

地域を創る

四国を拓く

5

とにかくパワフルでバイタリティーにあふれている女性だ。地方都市の主婦が少女時代に憧れた欧州と四国との交流に奮闘。2014年には欧州連合(EU)のファンロンプイ大統領(当時)との面会まで果たす。驚かされるのが道なき道を独力で切り開く力。「私の妄想を実現するために協力してくれる方々に感謝したい。力添えがあつてこそ」。NPO「四国夢中人」代表の尾崎美恵さん(63)丸亀市七番丁は、そう言って屈託のない笑みを浮かべた。

尾崎美恵さん(63) 丸亀市七番丁

欧州との交流に奮闘

丸亀市では、長男が通う幼稚園でシスターから仏語を習う機会に恵まれた。43歳で岡山大学院に入学し、4年後には短大の仏語講師などを務め、教員研修で何度もフランスに渡った。07年夏、パリでうどん

屋に行列ができている光景に衝撃を受ける。アニメやゲームなど「クール・ジャパン(カッコいい日本)」で盛り上がっていた頃。「日本に向けている熱い視線を四国にも注がせたい」。欧州と四国の交流を図る四国夢中人。尾崎さん一人のNPOが誕生した。

行動は早い。08年から11年までパリのジャパンエキスポに出展し、うどんなどを販売。いろいろなことを思ったら即行動。あれこれ悩むのは後でいいんです。行政や企業などを巻き込んで支援を取り付け、幾多の困難を気迫と根性で乗り切った。

09年からは四国の魅力情報を発信してもらおうと、欧州のプロガーターを四国に招待。その一環で開いた俳句ツアーが大統領との面会につながる。大統領も俳人であることを知り、「会いたい。ラブレターを書こう」。そして、面会が実現する。

14年1月、ベルギーの首都・ブリュッセル。EU本部の国賓用の応接室で、大統領は温かく迎えてくれた。俳句ツアーや文化交流について歓談し、「大統領が『すごいね』と言ってくれた。天からのねぎらいの声のように聞こえた」と夢見心地の30分間を振り返る。



欧州に憧れを抱いたのは小学生の頃。愛媛県新居浜市生まれ。活発に遊ぶ少女の周りには、語学が堪能で、海外の様子を教えてくれる父親の知り合いがいた。大学は英文科を専攻。結婚後に暮ら



欧州に四国の魅力を伝えようと、文化交流活動に汗を流す尾崎美恵さん—丸亀市七番丁

現在は京大生らと丸亀沖の塩飽諸島の魅力発掘に注力。外国人に紹介するコンテンツとして瀬戸内海が有効だからだ。人口減少や高齢化が進む島だが、「島民の心豊かな暮らし」や「島の深さ」を伝えたい。手島は夏になるとヒマワリ畑がお目見えするの。お盆に帰省する子や孫のためだけに高齢の島民が花を咲かせて迎えるんです。なんて感

【メモ】欧州プロガーターは2009年に香川と愛媛、徳島で初開催。10年は四国遍路と瀬戸内国際芸術祭、11年は盆栽と茶の湯をテーマに各年5人を招いた。15年にパリで遍路をテーマにした講演会をコーディネートし、うどんのワークショップも開き、16年にはパリとブリュッセルで講演会を開催。京大生らと取り組む塩飽諸島のプロジェクトは丸亀市の手島でスタート。第1弾として今年4月に竹林を伐採、7月末には遍路道の清掃を行った。

四国4社共同企画

四国新聞

徳島新聞

愛媛新聞

高知新聞